

位置

のありしゆへ起れる國號也といへるも、據なきにはあらず、奈良の東大寺に所藏の古文書に、大寶三年御野國戸籍と見え、三代實錄に、元慶六年十二月二十一日己未勅云云、美濃國不破安八兩郡野、本自禁制、永爲藏人所獵野云々としるし、同七年十二月二十二日甲寅、令山城大和云々、美濃等國聽百姓樵於禁野内云々と見えたり、是當國にふるく御野のありし證なり。

(地勢提要) 各國經緯度

(附里程)

美濃加納三丁極高三十五度二十四分、經度東一度二分、從東都中山一百六里一十町二十七間、

(新撰美濃志) 國界は、京都より三十餘里、寅卯ノ方にあたり、東山道に屬ける地にて。中略左りははるかに松前蝦夷の地まで三百餘里、右も又大隅薩摩に至り三百餘里に及びたれば、實に日本の中央にあたれる上國なり。

(日本經緯度實測) 北極出地

美濃 關原 三五度二二分〇〇秒

加納 三五度二四分〇〇秒

東西里差

山城 京 ○度○○分○○秒中略

美野 加納 東一度〇二分〇三秒

(美濃明細記) 西國境

美濃國不破郡今須之西、美濃近江國境稱寢物語、

東ノ國堺 美濃信濃國境、恵奈郡落合邑、東金橋有二間餘、

(新撰美濃志) 國界は

(美濃全體說) 中西は近江、西北は越前、北東は飛驒、東は信濃、東南は參河南は

尾張、南西は伊勢の七箇國に隣り、前は尾張一國を隔て、南の海近く、後もまた越前一國を隔てて北の海遠からず、

(日本地誌提要) 疆域 東ハ信濃、飛驒、西ハ近江、伊勢、南ハ尾張、三河、北ハ越前、飛驒ニ至ル
東西凡貳拾六里、南北凡壹拾九里、

疆域